

東京都現代美術館(1)

事業名	会期	概要
リニューアル・オープン記念展 「百年の編み手たち - 流動する日本の近現代美術 -」	2019年3月29日～6月16日 3月29日は20時まで特別開館	1910年代から2010年代に至る日本の美術において、新旧のさまざまな表現や技法を編集的な視点で捉え、独自の創作を展開した編み手である作家たちの実践を、当館のコレクションを核に検証する展覧会です。さまざまな要素の選択的な「編集」を通して主体を揺るがせつつ制作を行う作家たちの実践に着目し、その背景を探ります。さらに、時代とともに変化してきた、当館が位置する木場という地域をめぐる創造も紹介し、日本の近現代美術史のなかに点在する重要な作品群を企画展示室3フロア全体を使って総覧します。
リニューアル・オープン記念展 「MOTコレクション ただいま／はじめまして」 第1期、第2期	[第1期] 2019年3月29日～6月16日 3月29日は20時まで特別開館 [第2期] 2019年7月20日～10月20日 21時まで特別開館: 7月26日、8月2日、9日、16日、23日、30日	リニューアル・オープンを記念した今回のコレクション展では、休館中に新たに収集した作品を中心に紹介します。第一弾は、主に2010年代に制作された作品群に焦点を当てながら、修復後の作品のお披露目なども行います。これまで「MOT コレクション」をご覧いただいた方も、今回初めてご覧になる方も、作品それぞれの魅力に触れていただくことができます。
TOKYO ART BOOK FAIR 2019	2019年7月12日～15日	TOKYO ART BOOK FAIRは、2009年にスタートした、アート出版に特化する日本で初めてのブックフェアです。10回目の開催となる今回は、展示室においてアメリカの出版文化や日本人作家によるアートブックを紹介すると共に、さまざまなゲストを交えてのトークイベント等を開催します。パブリックエリアではアートの文脈において価値のある書籍、独創的なアイデアをかたちにしたアーティストブック、一般書店では手に入らない少数のZINE(自主制作出版物)等を作る出版社やギャラリー、アーティストが一堂に会します。
「あそびのじかん」	2019年7月20日～10月20日 21時まで特別開館: 7月26日、8月2日、9日、16日、23日、30日	「遊び」をテーマにした、こどもから大人まで、ファミリーで楽しめる展覧会です。一見ゲームのような参加型インスタレーションやひとり遊びの痕跡のような表現等、ユニークな作品をとおり、遊びとアートの関係を探ります。色や形、感触、音や動き等こどもにとって楽しい刺激があると同時に、大人にとっては現代を取り巻く閉塞感から抜け出すヒントとなるような、遊び心あふれるアーティストの作品を紹介します。
MOTサテライト 2019 ひろがる地図 【アーツカウンシル東京事業】	2019年8月3日～10月20日 21時まで特別開館: 8月9日、16日、23日、30日	美術作品をまち歩きと共に楽しみ、「まち＝地域」の魅力を再発見する「MOTサテライト」の4回目。今回のテーマは「地図」です。当館内でアーティストが表現した地図空間を追体験した後、清澄白河のまちを歩いてみてください。知らない土地を探検する手がかりであり、自分の視点を映し出す鏡ともなる「地図」は、わたしたちが暮らすまちへのまなざしも変えることでしょう。

※この内容は平成31年3月7日現在のものです。事業名は変更する場合がございます。会期は予定です。
詳細は東京都現代美術館広報担当にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都現代美術館
〒135-0022 江東区三好4-1-1
電話 03-5245-1134 FAX 03-5245-1141
http://www.mot-art-museum.jp
※ 大規模改修工事のため、平成31年3月28日まで休館中
※ お問い合わせ受付: 平日9時30分～18時(平成31年3月28日まで)、
※ 3月29日以降は美術館開館日に準ずる。(10時～18時)
※ 開館時間: 10時～18時(夏休み期間の金曜日は「サマーナイトミュージアム」実施のため21時まで開館)
※ 休館日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始

東京都現代美術館(2)

事業名	会期	概要
「MOTアニュアル 2019」	2019年11月16日～ 2020年2月16日	本展は、異なる文化や表現領域が混合する空間としての東京に拠点を置く美術館ならではの視点から、日本の若手作家の作品を中心に、現代美術の一側面を切り取り、問いかけや議論の始まりを引き出すグループ展です。15回目となる今回は、身の回りの環境や事物、現象から表現の兆候を読み取り、それを編集していく媒介者的な活動を行う作家たちを紹介します。
「ミナ ペルホネン／皆川明 つづく」	2019年11月16日～ 2020年2月16日	デザイナーの皆川明(1967-)が立ち上げたファッション・テキスタイルブランド「ミナ ペルホネン」(1995-2004は「ミナ」)。長年着用でき、創造的かつ普遍的な価値を持つ「特別な日常服」を提案し、生地産地と深いコミュニケーションを重ねながらものづくりをしています。本展では、作り手と使い手の双方に価値を生み出すデザインを基本とする皆川明とミナ ペルホネンの思想・活動を紐解き、現代におけるものづくりの意味とデザインの社会的役割を考察します。
「ダムタイプ—アクション＋リフレクション」	2019年11月16日～ 2020年2月16日	ダムタイプは、日本を代表するメディアアーティストグループです。京都での結成後、彼らは「デジタルと身体」、「ポストヒューマン」のヴィジョンを先駆的に表現しました。結成35周年を迎え、古橋悌二らメンバーの個性や現在に通じるメッセージを体感する契機となる本展では、仏ポンピドゥー・センター・メッスの個展に作品・活動のアーカイブが加わります。また、池田亮司・高谷史郎の作品を含む大型インスタレーションを展開します。
リニューアル・オープン記念展 「MOTコレクション いま—かつて 複数のパースペクティブ」 第3期、第4期	[第3期] 2019年11月16日～ 2020年2月16日 [第4期] 2020年3月14日～6月14日	第3・4期では、近年に收藏されたもののなかから、初めてご紹介する作品を中心に展示します。出品作品は、戦前のもので近年に発表されたものまで幅広く、また様々な場所を背景として制作されています。そうした歴史や都市に対する複数の見方を宿した作品は、いまの私たちの在り方について、様々な方向から考える契機となることでしょう。なお、第3期と第4期の間に、一部展示替えを行う予定です。
「オラファー・エリアソン」	2020年3月14日～ 6月14日	光や水、霧などの自然現象を自在に変容させ、見る者に新しい知覚体験を与える作品で世界的に高く評価されているオラファー・エリアソン(1967年コペンハーゲン生まれ)の個展です。本展は「エコロジー」をテーマに、自然を再構築したインスタレーションや彼のルーツであるアイスランドの風景写真から近年の建築やデザインのプロジェクトまで、環境や社会に対するアートの多面的な可能性を探求し続けるエリアソンの試みを紹介しします。
「カディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画展」	2020年3月14日～ 6月14日	世界各国の現代美術作品を收藏し、各地で展覧会やアーティスト支援を行っているカディスト・アート・ファウンデーションとの共同企画展。大気汚染をもたらす風や、生きる道を求めて国境を超える人々、甦る過去の出来事や、今も息づく神話伝承など、現代社会を形成するあらゆる枠組みや時空を超えて立ち現れ、存在し続けるものが、どのような世界の像を映し出し、新たな想像への可能性を湛えているのかを、作品を通じて探ります。
「ドローイングの可能性」	2020年3月14日～ 6月14日	デジタル化の加速する現代社会にあって、表現におけるドローイングの可能性は広がっています。本展では、美術家によるドローイングとともに、建築や音楽など多分野の記号的な機能をもつ手描きの表現を、現代におけるドローイングとしてとりあげ、平面における思考の実験とその可能性を再考します。

※この内容は平成31年3月7日現在のものです。事業名は変更する場合がございます。会期は予定です。
詳細は東京都現代美術館広報担当にお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

東京都現代美術館

〒135-0022 江東区三好4-1-1

電話 03-5245-1134 FAX 03-5245-1141

<http://www.mot-art-museum.jp>

※ 大規模改修工事のため、平成31年3月28日まで休館中

※ お問い合わせ受付: 平日9時30分～18時(平成31年3月28日まで)、

※3月29日以降は美術館開館日に準ずる。(10時～18時)

※ 開館時間: 10時～18時(夏休み期間の金曜日は「サマーナイトミュージアム」実施のため21時まで開館)

※ 休館日: 毎週月曜日(祝日・振替休日の場合は開館、翌平日休館)、年末年始